

産学協働プログラム 「人生 100 年時代の都市・インフラ学」 中間講評会

2021 年 5 月 25 日（月） @東工大 デジタルホール／ Zoom 同時開催

【コメントシート チーム 3】

野原先生

「選択肢のあること」そのものが、心理的に人を豊かにすることとはとても人間的ですね。実際に何を選ぶのか、とは別の豊かさなのかと考えさせられました。

真野先生

- ・「住まいと暮らし方」というテーマは普遍的ですが、戦後や高度成長期、バブル期などのどの時代とも異なる未来を想像していくとどうなるのでしょうか。
- ・「顧客満足度を高める」という見方は、本プログラムに属する集団ならではの見方かもしれませんが、これもまた常識的な視点かもしれません。
- ・「土着性・選択性・画一性が変わる」「常識的なところが変わる」という部分に注目しています。常識の中身が変化することなのか、常識にとらわれない視野やアイデアが次々と形になっていくのかなど。
- ・最終的には「住まい」の領域や考え方の拡張とともに提案の展開につながれば良いと思います。
- ・提案方針 3) のケースに注目しています。

浅輪先生

ご発表をいただきありがとうございました。私は担当教員ですので、今後議論させていただければと思いますが、住まい・暮らしの拠点をより主体的に選べることで、今まで以上に地域への愛着・コミュニティが強化されるという点は、重要なポイントと思いました。二拠点でも別荘コミュニティというものもありますし、地域の祭りに毎年参加して、伝統文化の担い手不足を解消するなどもあるかもしれませんね。都市と地方との関係にもつながるかと思います。

また、住まいのサブスクなどがうまく機能する、具体の仕組みのイメージを作ること面白いかと思いました（永野さんとは少しお話をしたポイント制など？）。

室町先生

多様な選択肢から選ぶことができる中にコミュニティの要素が考えられますが、中身が見えないコミュニティを選ぶのはなかなか難しいように思いました。それは自分に合ったコミュニティを選ぶということと思いますが、それではコミュニティ内の多様性は失われるような気がしますし、では多様性のあるコミュニティを選べばよいかと考えるとそれは特徴のあるコミュニティではないような気がするし、興味深いポイントです。

鼎先生

大変興味深いご発表ありがとうございました。

たとえば NHK の朝ドラマで昭和が舞台になると、昭和風の家の中は、なにかとごちゃごちゃと色々な「モノ」が置いてありますよね。大きなものではタンスとか、小さい道具等としては色々な細かいものがあります。私の実家にも、そういったものがごちゃごちゃとありました。そういった「モノ」はどうなっていくイメージでしょうか？

十代田先生

・空間的、経済的、地域的流動性との関係（バランス）、どのような都市像、国土像を描くことになるのかま
で論じると面白いのでは？